|  |
| --- |
| ２０２５年において必要とされる病床数の推計結果 |

北海道議会説明要旨

○資料２－３ 「2025年において必要とされる病床数の推計結果について」2025年において必要とされる病床数の推計結果について。

道では、地域医療構想の議論を行うための基礎となるものとして、国から提供されたデータを基に、厚生労働省令で定められた算定式により、道内の二次医療圏ごとに2025年において必要となる医療の規模（病床数）の推計を行いました。

○ 本推計は、「必要な病床数」という形をとっていますが、現在、患者に行われて

いる医療行為の量を元に、少子高齢化や地域ごとの人口の増減といった人口構造の変化や、慢性疾患の増加といった疾病構造の変化を踏まえ、今後、高度急性期、急性期、回復期、慢性期など、どのような種類の医療が、どの程度必要かという「医療の需要」「患者の数」を推計したものです。

○ また、この推計に基づき、病床を強制的に削減していくという趣旨のものではなく、今後、道内各地で地域医療構想の策定に向けて議論を行うための基礎となるものです。

○ ３ページですが、今後、議論を行っていく際に基礎とする推計については、回復期及び慢性期は、できるだけ住所地に近いところで入院を可能とすることが望ましいとの考え方の元、患者の住所地の二次医療圏で入院すると想定し、また、高度急性期及び急性期は、現状の流出入を大きく変化させることは難しいとの考えの元、患者の二次医療圏をまたいだ流出が、現状のまま継続すると想定した推計を用いることとしています。

○ 資料では、二次医療圏ごとに、稼働していない病床を含んだ2013年の病床数と

2025年に必要とされる病床数を示すとともに、北海道医療計画に定められている「基準病床数」や人口推計についても示しています。

○ 推計結果については、全道の2025年において必要とされる病床数は、最大値で

73,070床、最小値で68,509床と推計され、2013年の病床数である83,556床と比較しますと、10,486床から15,047床、率にしますと12.6％から18.0％の減少となっています。

○ 一方、二次医療圏における2013年の病床数と2025年において必要とされる病

床数の最大値との差を見ますと、主なものとして、北渡島檜山地域で45.9％、南檜山地域で45.6％、遠紋地域で35.8％の減少率となっております。また、東胆振地域では、0.7％の増加となっています。

○ 資料２ページ、今後の進め方ですが、道においては、地域医療構想策定方針に基づき、地域医療専門委員会及び地域医療構想調整会議において、今回の推計結果など様々なデータを用いながら、医療機関、市町村をはじめとする関係者の方々と構想の策定に向け、議論を行っていく予定です。

○ また、シンポジウムやパブリックコメントを実施するなど、地域の声を反映しながら、現時点では、平成28年度の夏頃を目途として策定に取り組んでまいりたいと考えています。